

ひろばちがさき

NO. 1086

新政ちがさき

2015年3月27日

茅ヶ崎市茅ヶ崎1-1-1市役所内 0467(82)1111

新政ちがさき有志	
岸正明	87-8766
こいそ妙子	52-6731
和田清	84-9969
よしかわ和夫	86-0032
早川ひとみ	52-8361

介護保険改悪で市は介護難民を救えるか？

3月23日、和田清議員が会派を代表して討論を行いました。

●介護保険改正施行まで2年で対策を構築できるか？

豊かな長寿社会を実現するため、規制緩和等を含めた内容となつているが、茅ヶ崎は、29年3月まで施行を延期し、体制を整える。要支援者が介護保険対象から外され、市事業に替わるが、財源的制約は厳しく、ボランティアを含めた多様で実効性のある対応策を取らなければ、多くの介護難民や疲弊していく家族等の問題が浮上する。

担当課創設等、人員配置の措置は評価する。しかし、モデル地区湘北地区の基盤整備、医師会等関係機関との連携など、全庁的に取り組む必要がある。

介護・医療の現場の声を真摯に受け止め、スピード感をもち、対応すること

●学童保育待機100名、急に受入体制整備を！

1次募集での利用児童予測は困難だが、保育園等の実態から推定も可能で、早めでのゆとりを



持った整備計画が望まれる。また、多くの学童クラブでは、十分な空間が確保されていない。

わが市の学童保育環境は格段の進歩を遂げ、「茅ヶ崎モデル」と言われるが、時代は量から質に移るべき時が来た。

対象年齢が6年生となり、施設規模基準も定められた。社会動向も鑑み、ニーズに合わせた適正な整備計画の作成実行が求められる。

2か所の新クラブの創設は期待するが、急に決まった国補助に頼らず、長期的視野に立ち、地域格差が生じないよう対策を要望する。

●子どもの貧困・格差是正、暴力事件対策等充実を！

こころの相談室や、市費教員、スクールソーシャルワーカーの拡充など、いじめの問題を含めた多様な教育ニーズに対応するための施策の取り組みは評価するが、格差の広がりや、貧困問題が指摘され、中学1年生殺害など悲惨な事件も起つて

いる現実を考えると、きめ細かな対応、福祉等他種専門職との連携など、課題は山積している。厳しい財政で、質の向上も含めた充実を図ることは難しいが、喫緊の課題である。更なる拡充を要望する。



中核市・保健所政令市は、本当に市民を豊かにするのか？

●市の年間持出し1億円超！

保健所政令市移行は、迅速で連続性のある市民サービスの向上が成果だが、反面、専門家の確保、育成、ネットワークの構築、財源の確保等難題がある。支出増、職員負担増など、単に県の負担軽減だけしか効果が上がらないとすれば、この時期の移行が適切かどうか、冷静に分析し、しっかりと県の交渉に臨むべきだ。建物の維持管理の経費だけでなく、敷地等今後の活用も含めた長期ビジョンに基づいた計画を包含した効果的な成果を期待する。



現茅ヶ崎保健所

●貧困の連鎖を食い止める若者就労支援充実を！

生活困窮者支援事業は、新たな窓口を設置するなど、これまでの保護・管理・指導といった内容を超え、積極的な取り組みとして評価する。

しかし、若者の就労支援等の課題も踏まえ、広い視野に立ち、就労支援機関等との連携を図り、実効性のある新しい支援体制の構築が期待される。



辻堂にあるあすなろサポートセンター等、県との連携強化、市の横断的な支援体制の構築を要望する。

●安易な業務委託はリスク！

市の担うべき事業の専門化や多様化により、業務委託で民間のノウハウを活用し、効率化や経費節減を行う流れは理解する。しかし、市職員の人材育成の観点から、市職員の専門性等資質の向上が必要な側面も考えないと、安易な業務委託はすべきではない。

い。しかるべき職員育成は将来への投資だ。目先の経費節減や効率だけで、委託し、災害時等のリスクマネジメントが出来ない組織になってしまつては、市民にとってあるべき自治体とは言えない。

●ごみ減量化教育の徹底を！

焼却処理施設の延命工事は、ごみ対策として必要な工事だ。しかし、最終処分場の延命化も含め、ごみ減量化対策、リサイクルの拡大など、環境問題としてのごみ対策について、広く市民への啓発・教育を徹底し、市民の理解と協力を仰いでいく必要がある。

議会からの政策提言にもあるように、教育機関等との連携を含め、取組みの強化を要望する。



環境センター